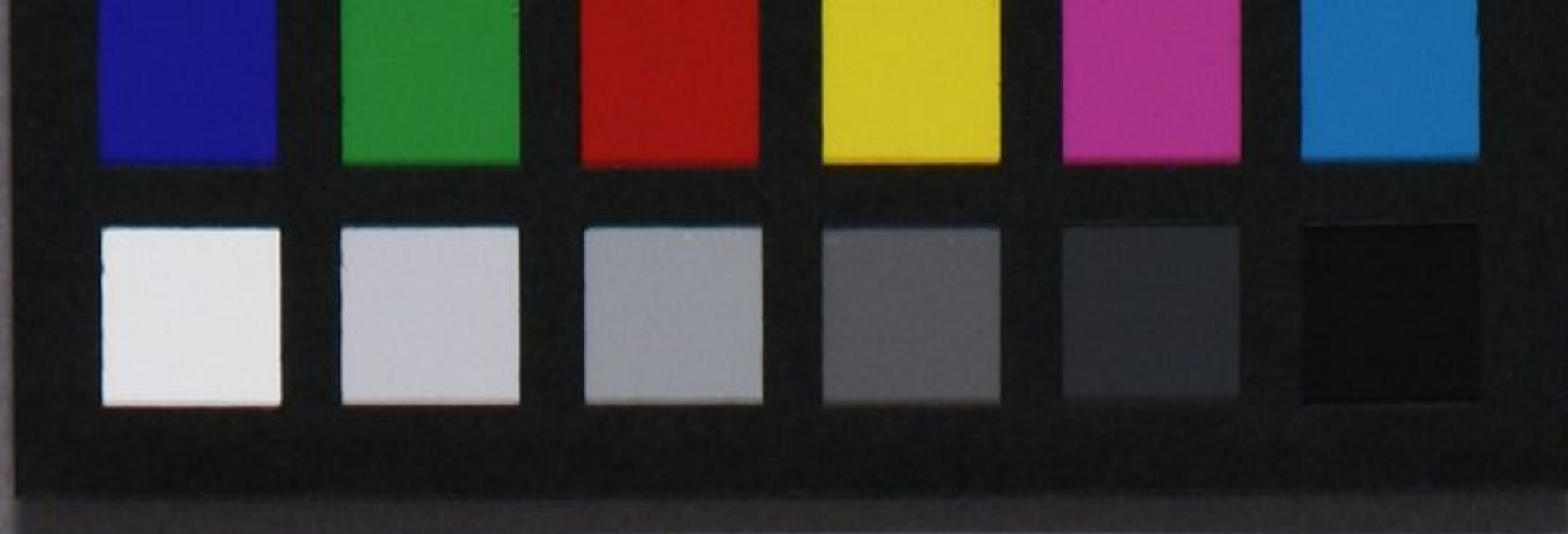




大阪日々新聞紙

第十号

新報室

明治二十九年

東京葛飾町三丁目雇稼高井七兵衛といふ困窮人なり生くる子宝也

死の室がかりたをされし長女を六才で埼玉縣島根村織渡世相川

晋八方へ給金七円中十年子未遣いおぢふ其ハ

夫婦のてらん嚴したよりいふ立横もつらねお

つらねのあとを認ゆるけ余史

あの子をやたらと節の

けろ玉の緒の切きて死んで

とつあとか顯と實親の

歎たしむるうけ既此段

謝とあり此頃かゝるふ

まろてつらねを天理お

かあぶき人をほろむ苦

をほろむ世の諺を言ふと

邪見邪心慎むべし報知

六百五十七号記せり

文花堂誌

文花堂誌

明治二十九年

明治二十九年

